

牒(67)

廿八年五月二日

○浦港ヲ臨戰地ト宣告サレタルニ就テノ電報

電報

五月二日午前十時三十分東京發

五月二日在浦潮斯德港二橋貿易事務官ヨリ左ノ電報アリ
浦塩斯德港ハ臨戰地ト宣告サレ黒龍江地方ハ戰鬥準備
ノ命ヲ受ケタルニヨリ日本人ハ必要ノ場合ニハ当地ヲ
立去ラシムル為メ豫メ用意スヘキ様知事ヨリ通知アリ
又同日西山大尉ヨリモ左ノ報アリ
浦塩斯德港ハ今日戒嚴ニ着手スト

大本營

樺山參謀官

大總督府

大本營

牒(67)

廿八年四月廿日より五月二日に至ル

○浦港ノ戒嚴其他ノ現況

海赤第廿号
廿八年五月十日

五月二日付在浦塩斯德西山海軍大尉ノ報ニ曰ク浦塩斯德
港戒嚴ト黒龍沿海州軍隊ノ出師準備ハ四月三十日命令セ
ラレ五月二日豫備後備徴集先日以来日本人間者ノ探索ニ
入込ミ居ル者ヲ嚴密ニ穿索ノ摸樣アリ目下碇泊軍艦ハ四
一ブル水雷艇四義勇艦隊汽船三小形運送船四

大本營

様 (67)

廿八年五月二日より十一日に至ル

○兵員ノ召集及浦滝ノ近辺

雜第十五號

豫備後備兵召集ニ関スル件及近況

五月二日浦塩斯德警察廳ハ豫備後備兵召集令ヲ發ス即チ
左ノ如シ

本市警察廳ハ出師準備ノ勅令ニ基キ左記ノ事項ヲ施行
ス

第一浦塩斯德市内ニ居住スル所ノ豫備後備兵ハ該召集
令發布ノ日ヨリ一晝夜間ニ必ス本廳ニ出頭セサル可
ス又該兵ニシテ一時市外ニ出テ南部ウスリ管区内ニ在
ルモノニシテ本廳名簿ニ登録ノ者ハ該令發布ノ日ヨリ
二晝夜間ニ本廳ニ出頭スヘシ

第二召集令所定ノ期日ニ達シ警察廳ニ出頭セル者ハ罰

金ヲ科ス

第三豫備後備兵ニシテ召集ニ應セサル者又ハ遁逃セル

者アルキハ探捕ノ上軍法裁判ニ附スル為メ所管区ニ送

附ス

第四召集ニ應シ警察廳ニ出頭スル豫備後備兵ハ兼テ下

附セラレタル所ノ制服上衣并ニ靴ヲ着ス可シ

第五各官解及ヒ一個人并ニ私立会社等ニシテ豫備後備

兵ヲ傭役スル向ハ該召集令ニヨリ直ニ該兵ニ支拂フ可

キ金員ヲ渡シ警察廳ニ出頭スルニ支障ナカラシム可シ

右召集令ニヨリ當港ニ於テ召集セラレタル豫備後備兵ハ

約一千名ナリト(一説ニハ二千名ナリトモ云ヘリ)又之レト同時ニ市内ヨリ馬

匹ヲ徵集セシカ其數八百頭ニ達セリト

右召集令ハ「ニコリスク」村并ニ「ウガキ」エウスク「衛所」等ニ於
テモ亦同時發布セラレタリ而シテ「ニコリスク」村ハ其附近
ニ散在スル豫備後備兵最モ多ク嘗テ探聞スル所ニヨレハ
大約四千アリト云フ

本月四日より七日ニ至ルノ間当港ニ於ケル兵員ノ移動ハ
稍頻繁ニシテ日々汽車ニテ之ヲ内地ニ送り又内地ヨリ當
港ニ送り来ルアリ汽船ニテ一二回往復スルモアリタレ氏
其如何ナル兵ヲ何地ニ送り如何ナル兵ヲ當港ニ送り来レ
ルヤハ探知シ難シト虽氏今回召集セシ豫備後備兵ハ大約
之ヲ「ニコリスク」村ニ送り該村屯在ノ常備兵ヲ當港ニ送り
来レルモノナラン汽船ノ往復セシハ一回ハ「ボシエツ」小灣一
回ハ「バラハツ」小宿衛附近ニ在ルモノゴウ「海ナリ」シハ確ナ
レ氏目下軍事探偵ノ搜索甚々嚴密ナルカ故ニ兵種兵數ノ

如キ之ヲ詳ニスル能ハス又防備ノ如何ヲ偵察スル為メ市
外又ハ海上ニ出ル能ハサルハ甚タ遺憾ナリ
当港ノ防備ト出師準備トハ兩三日前略ホ完結シ黑龍總督
ヨリ之ヲ皇帝陛下ニ具申セリ敷設水雷ハ之レカ準備ヲナ
シタルモ未タ實際ニ沈置セサルカ如シ
聞ク所ニヨレハ從來当港ノ倉庫ニ貯藏スル水雷罐ハ其數
僅ニ六十個内外ナリト果シテ然ラハ多數ノ仮設水雷ヲ用
ルニ非レハ港口ノ閉塞ハ甚タ容易ナラサル可シ
當港ニ於テ戰時最モ困難ナルハ糧食ニシテ目下貯藏スル
所ノ麦粉ハ僅ニ數十日ヲ支フルニ足ラス故ニ之ヲ補充ス
ルニハ鐵道工夫ニ支給スルノ目的ヲ以テ貯藏シタル多量
ノ白米ヲ使用スルノ計畫ナリト云フ芻蕘ノ如キモ亦頗ル
不自由ニシテ現今一切之レカ買賣ヲ禁セリ當港ヲ作戰ノ

地ト定メラレシ以來本邦人ト露國人トヲ問ハス一時人心
恟々タリシカ去ル七日ニ至リ日本ハ露國ノ要求ヲ容レタ
ルヤノ説アリ爾來稍々平穩ニ復セリ

船舶ノ出入ハ左ノ如シ

ヤロスラーウリ號 五月五日因徒ヲ搭シ薩哈連嶋ニ向ヒ
出港

ペテルブルク號 六日出港本國ニ向ヒシナラン

カラートウ號 七日出港本國ニ向フ

ハバロースク號 五日長崎ヨリ入港

モスクワ號 十一日長崎ヨリ入港

其他ハ雜チ十三號ノ如シ

右報告仕度也

五月十一日

子爵樺山資紀殿

在浦塩港

西山實親

1594

臨界三(6)

廿年五月廿九日

探啓陳者之月才大総督方トサニ金分ハ戻候相成有
候様新聞紙上ニテ了承改其好モ強テ口味者ト打る
我後千石は海女車希方当港も本月初ノ俄ニ戒嚴ニ
着手スル等一時ハ購和條約モ如何ニ成行カト存
在ル要目也此准信ト相成致趣為國家大慶此事
ニ生テ当港ニ警備ハ未タ全ク撤去セラレズ候得共漸
次緩カニおと人人心モ平穩ニ復シ目下格別ノ異状モ
無之候今因当港ノ戒嚴ニ付テハ諸事正確ニ探知ス
ト往々手ヲ回シ候モ之便来申上ニテ如ク軍事探偵
ノ搜索中ニ嚴密ニシテ山ニ登リ海ニ出ルモ日本トサヘ
云ハ軍事ノ探偵ノ嫌疑ヲ受ケ拘留サレタルモアリ數年

車外國人ノ商店ニ傭ハシ居ルモノニテ当港ハ素ヨリ「ニコリス」
ノ村ニテモ軍事偵察ヲ者ト疑レタルアリ是ハ數年來日本
軍人カ清國ニ入り込ミ種々姿ヲ変シ偵察ヲナシタル哉ヲ
知リテ其筋ニテ大ニ注目セシト一ハ居留日本人中浮薄
ノ徒アリテ前後ノ考モ無ク慢リニ日本軍事偵ノ在るニ殆
ル哉ヲ口外セシニ依ルナラントト云々此際水雷布設ノ位
置衛所又ハ附近ニ於ケル軍隊ノ情况等ヲ探知スルハ
尤モ必要ヲ尋相原ヲ派遣スル歟又ハ自身ニ實驗政ニ云々
先ツ相見合セテ次第ニ有ク候
今日樺山部長閣下ニハ甚々遺憾ヲ感スル所ナリ
閣下トハ更任ニ由是又新聞紙上ニテ了承政
候何事ヲ部長閣下ハ貴下ヨリ千萬恒敷ハ鳳声

被下度奉願候餘ハ後便ニ譲り候
五月二十九日

角田秀松殿

西山

[illegible]

陸軍三(67)

廿年五月廿九日

雜第千號

東部「ボスフホル」海峡西口ノ布設水雷撤去
並ニ豫備後備兵ニ帰宅ヲ許シタル件

五月二十日當港口東部「ボスフホル」海峡ノ西口即チ
黑龍灣ヨリノ入口ニ布設セル水雷ヲ撤去シ軍港司
令官ハ左記ノ命令ヲ發セリ

東部「ボスフホル」海峡ノ西口ニ布設セル水雷ハ一時除
去スルヲ以テ當分ノ内全所ニ水雷看張船ヲ置カス

(五月廿日附軍港司令官命令)

先般召集セル所ノ豫備後備兵ハ本月廿三日頃ヨリ漸次
帰宅スルコトヲ許シタルモ當分遠隔ノ地ニ旅行スルコ

トヲ禁セラレタリト云フ

右二件ニヨリテ考察スルニ布設水雷ノ一部ハ一時除去スルト
云フニ止リ豫備後備兵ハ帰宅ヲ許サレタル迄ニミテ本港ノ
警戒ハ未タ全ク解除セラレタルニ非ス既ニ三國同盟ノ忠告
ヲ納レテ媾和條約ノ批准瀦トナリタル今日本港ノ警戒ヲ
全ク解除セサルハ猶必要ナル理由ノ存スルアラニ目下本港
ノ人心モ大ニ平穩ニ復シ更ニ異條ナキカ如クニ候
右報告仕候也

二十八年五月二十九日

左浦塩野徳港

西山実親

海軍令部長伊東祐亨殿

牒(68)
(67)

廿八年六月廿五日

到着ノ軍隊配置

近着ノハッロフスノ府新聞摘譯

二十八年八月七日萩野少兵大尉

六月二十五日海路ヨリ浦潮斯德ニ到着シタル諸隊ハ左ノ
通り配置セリ

第一 臼砲中隊及臼砲廠

ニコリスノ

第二 臼砲中隊

ハウタキエフスノ

要塞砲兵中隊

浦潮斯德

大木

牒(67)

廿八年七月十五日

○軍港ノ假定

七月十五日付在浦塩斯德港西山海軍大尉報

魯西重島ハ一ウイック湾ヲ軍港ニ假定スルノ件

浦塩斯德港近傍ニ商港ヲ築造セントスルノ件ハ千八百九十二年故黑龍總督コルフ中将ヲ議長トシテ委員會ヲ開キ其必要ヲ議決シタルモ商港揆定ノ地ニ付種々ノ議論アリシカ本年ニ至リ更ニ商港問題ヲ速決セサル可ラサルノ必要ヲ認メ当軍港司令官ヲ議長トシ陸海軍省及工部省ノ委員ヨリ成立セル特別會議ヲ開キ先頃ヨリ審議中ナリシカ開キ所ニヨレハ右委員會ニ於テハ浦塩斯德港ヲ商港トシ更ニ魯西重島内ノウイック湾ヲ軍港ニ假定スルニ決シタリト云フ

右来タ公然發表シタル決議ニハ無キモノノウイツク湾ハ
当湾ヲ距ル僅ニ數里ナルニ拘ラス結氷ノ時期短クシテ便
益數カラス且ツ魯西亜島ハ現ニ海軍用地タルカ故ニ露國
カ數年来ノ企圖タル不凍湾ヲ得ルニ至ル迄バーウイツク湾
ヲ軍港ト仮定スルニ決シタルモノナラン歟

二十八年十二月廿八日

海令第二十八号

一月十四日

相原海軍編修書記稿

露國浦塩斯德港滞在見聞報告

夫、浦塩斯德港ハ露國ノ東洋ニ面シ一大要衝ノ地ニシテ千八百八十九年本港ヲ浦塩斯德堡砦ト改称セシ以來大ニ其警備ヲ嚴シシ来リシカ昨年ヨリ本年、且、日清戦争ハ一層当港ノ防備上ニ刺撃ヲ興ヘ砲台ノ經營修築駐屯兵ノ補充増負等銳意計畫作戰攻守ノ根拠地トセシト汲セタリ今茲ニ昨年六月以降当港ノ攻防經營ノ概況ヲ記スルニ素ヨリ浦塩斯德港砲台ノ築設計畫ハ既ニ數年前ニ其筋ヲ確定セシモ在再時ヲ移シタル日清開戦ノ頃ヲ着々砲台等ノ修築ヲ起シ即チ附圖ニ記入ス



其ハ砲台ハ既成ニテ朱字ノ今ハ昨年六七月頃ヲ修築差ク改造ヲ加ヘ工事ヲ急督

レテ(ト)(ハ)砲台既ニ竣工シ(三)砲台モ殆シド竣工シテ砲門ヲ掘
付タリ(イ)(チ)砲台ハ土工中(ホ)砲台唯ニ砲一二門アル而セテ一時砲台
ヲ仮設セル過キムトスフ以上諸砲台中一窺スルニ壯觀トモ云フ(キモハ)チグ
ローワヤ(ト)砲台ニ浦塩斯德港奥ノ山嶺ニ位置シ孰モ土製砲台ニ
テ四面ニ厚リ三尋以上ノ障壁ヲ繞ラシ其内部ニ兵千人以上ヲ容ルニ足ル
ト云フ備装砲ハ口至十一柵九柵及臼砲野砲等十門アリ該砲台ヲ
ハ浦塩斯德港口至黒龍濱ヲ眼下ニ瞰ミ且ツ遙ニ海上ヲ警視スル
ヲ以テ諸砲台中第一ノ好位置トシ是ヲ港口ノ「ガウドビン」砲台ニ掲ケレ
僅此右旗ヲ本年九月十八日移シテ茲ニ掲揚セリ又(ハ)砲台モ昨年七
八月頃ヲ修築ニ着手シ本年十月頃竣工口至十一柵九柵砲七門並ニ
小口至連射砲二門ヲ備装セリ(リ)ハ唯海岸ニ砲五門ヲ列置ル其他尚
ホ(又)(ヌ)ノ点ニモ砲台築設計畫中ナリト云フ

一浦塩斯德港ハ言フ候々全沿海及黒龍州ノ警備ハ昨千八百九

堡砦砲兵 浦塩斯德堡砦司令本部長陸軍少将「スワリシヨーウ」氏之長タリ氏ハ本港陸軍部内ニ於テ最先任官ニ頗ル権力家ナリ然レテ該砲兵ハ四中隊ヲ成リ兵員千四百四十人トス然モテ第四中隊ハ本年八月政露ヲ来着ス四中隊共現時ハ「カウドビニ岬」側ナル砲兵營ニ營舎シ各砲台ニ配置セラル

附記 本年六月十四日官「カウドビニ」砲台附陸軍砲兵大尉「ナチエウ」氏（目下清國ニ派遣シタリ多ク）ヲ訪ヒ兵營内ヲ一覽シタル中全式ヲ聞ク所ニ依ル當港各砲台ニ備装セル砲ハ口至六拵、九拵及ヒ十一拵、榴彈砲ニテ大藥ハ本年一月、魚烟火藥使用訓令ニ基キ露國製式、魚烟火藥ヲ使用スト云フ

（右無烟火藥使用ニ係ル海陸軍部内ノ訓達ハ左ノ如シ）
今回露國ニ於テハ千八百九十一年式「三リー」ミヤロ口至連發銃其他野砲、山砲、堡砦砲、攻城砲、及海岸諸砲ニ露國製式、魚烟

火藥ヲ使用ス可シ

千八百九十五年一月十七日附

陸軍水雷隊

兵員百五十人

該水雷隊、港口ヲ布設水雷ヲ掌トル本年五月一日本港ニ戒嚴令ヲ布キ戰陣準備ヲ為セシトキ「ホスフォール」海峡ノ東入口最狹ノ所、該水雷隊ニテ水雷ヲ布設セリ

第一烏蘇里鐵道大隊

該大隊ハ中隊ヲ成リ本年五月頃ヲ十月マテニ義勇艦隊汽船ニ改露ヲ到達シ鐵道線路警備ノ為メ沿線各所ニ配置セラレ豫定ナリシモ此大隊、編成及ニ兵員ノ改露ヲ到達スル極メ急速ナリシヲ以テ之ヲ容ルヘキ營舎未ダ整ハサルカ故ニ其一部ハ當今浦塩斯德港ノ移民假屋ト「ニコリヌク」村トニ屯在セリ

第一烏蘇里「カガリ」之屯田兵

右、昨年以来、政露より義勇艦隊内地より陸路烏蘇里地方
に向テ到着シ、烏蘇利河附近又ハハニカ湖岸に散布セル諸兵村
に移植セル其兵負ハ約二千五百以上に達セリ

以上記スルが如ク、浦塩斯德港に於テハ線列大隊五大隊、堡砦砲兵四中隊
工兵一大隊及水雷隊等ミテ其負ハ凡ソ七十人、但シ烏蘇里鐵道大隊
及烏蘇利「カガー」之屯田兵ハ之に算入セス

浦塩斯德附近に駐屯スル兵ハ東部悉比利線列大隊五大隊、狙撃大
隊十大隊、其他砲兵旅團「カガー」之騎兵及ヒ臼砲隊等リ

(其中在地詳細ハ別掲
記スルハレ)

其外黑龍州及ヒ浦塩斯德地方に轉駐シ、爲メ目下該地方に向テ内地
より陸路進行中ノモハ西部悉比利第四、第八線列二大隊ト砲兵二
中隊ト内第八線列大隊ハ烏蘇利鐵道線路「クラーウスカヤ」兵
村に屯在ス、爲メ目下兵營築造中ナリ、蓋シ右諸兵悉ク到着セルハ

本年三四月ノ頃ナルナリ

一 烏蘇利鐵道ハ浦塩斯德港よりハバロフスクノ府ニ至ル全長七一八露里
(我カ一九四里一六丁三〇間)ノ内目下列車ノ通行シ得キ今ハ四四〇露里
(凡ソ我カ二〇里)ニシテ本年中ハハバロフスクノ府マテノ工事ハ竣エタル目的
ナリ沿線ノ兵村即チ「ユリス」村及ヒ「ラズドリーヌ」村其他諸兵村ハ線
列大隊狙撃大隊及ヒ諸種ノ軍兵駐屯スルヲ以テ一朝有事ノキ鐵道ヲ
利用シ軍兵ヲ輸送スルノ自在ナルニ特ニ烏蘇利鐵道ハ今同陸軍所轄
軍用鐵道トナリシヲ以テ一層之ヲ利用スルノ便アルナリ

一 悉比利海軍團ハ二巡航艦「ガビヤカー」号一隻砲艦「エレワン」
「ボール」号二隻、運送船「マク」号、外計四隻、水雷艇「ウス
「リ」
「スニガリ」
「ヤンチー」
「スチエナ」号、外田式小形モ、計十二隻、汽船
二隻、其兵員千四百四十人トス、其外本年より新ニ悉比利海軍團所
轄ノ屬セシ水雷艇「スウエアホルク」
「ミウーリ」
及ヒ「ホルム」
三隻アリ、依テ浦

塩斯德港悉比利海軍團所轄ノ兵員、合計千五百人。達ニテ該悉比利海軍團ノ艤船ヲ「ガビヤ」カニ号スル一ツ号、「マズヂ」ニ号スル一ツ号、「ボー」ニ号スル一ツ号等、如キ毎季交ルル太平洋艦隊ニ編入シ航海スルガ故、常時浦塩斯德港ニ屯在ス海軍兵員ノ數ハ一定セス冬時結氷中航海役務ヲ了リ、舍營中ニ時ト場合依リ六七百名屯在ス「アリ」ト云フ本年ノ如キ、悉比利海軍團所轄艦艇ハ殆ト悉ク太平洋艦隊ニ編入シテ出松ニ備、運送船ト田式ノ水雷艇而已、殊リ但シ小官十二月初旬浦塩斯德港ヲ登ル迄砲艦「レウ」チ一号ハ修繕ノ後ヲ港内ニ繫泊シ居リシカ本艦ハ結氷中港内ニ守冬スル「ナル」ヤ未タ鎮守府長官ヲ伺ふノ余、余アリシヲ聞カリキ

一本港海軍機械部ハ艦艇ノ修理、亦モ可キ各種ノ機械ヲ備、鍛冶工場、器械工場、修理工場等、数棟アリ、毎日職工三百名以上ヲ使役シ、艦艇ノ修履、洗滌、据替及ヒ水雷ノ修理等ハ茲ニ於テ充分ニ執行スルヲ得

ルト云フ而シテ修覆上ニ要ル諸材料其他艤艇必需、豫備品ハ義勇
艦隊航船ニテ改露ヲ回送シ常ニ倉庫ニ貯藏シ急ニ支障ナキカ
如ク支給スト云フ

一本港ノ海運事業ハ露商ハセウエリヨウニ航船會社ト義勇艦隊會社ト
ニテ專ラ之ヲ執行スセウエリヨウニ會社航船ハ目下四五隻ニシテ未タ該
社ノ事業ハ微々タルモノト云フ可シ然レ義勇艦隊會社ハ倍ニ盛大ニ赴キ兼
テ露國政府ヨリ巨額ノ保護金ヲ受ケル外今回露政府ハ迅速力ノ運送
船三隻製造ノ為ノ更ニ七十五萬留ヲ貸渡ス、決リ且又今會社ハ現
時所有スル航船一三千屯以上一萬五百屯以下十隻、外更ニ航船「ヘルツ」号一萬
二千二百二十五屯、「キー」エウ号「ロロ」衣正号及ヒ「エカテリ」号「四隻ヲ製
造シ僱ニ其事業ヲ擴張セリ

一浦塩斯德港附近其他艦ヲ沿海沿地方ハ礦物ノ外不生產的ノ地ニシテ
日需ノ麥粉其外艦ヲ食品等ニ悉比利ノ内地ヲ陸路ヲ輸送シ若クハ

政露ヲオボツリ一港ヲ經義勇艦隊航帆。依リ又ハ米國其他外國ヨリ
輸入セラル得ス斯ノ如ク一年間、海路浦塩斯德港ニ輸入スル麥粉ノ額
一粒ノ僅ニ輸入スルモノモアリハ實ニ莫大ナリトス故ニ露廷ハ於テハ該地方ノ防備
ヲ擴張スルニ第一ニ困難ヲ感スルハ糧食ノ供給ナカシ是ヲ政露若クハ
悉比利内地ヨリ沿海地方ニ向テ「カガ」ニ屯田兵ヲ移殖セシムルモ地味
疲瘦ニシテ農耕ニ適セサルヲ以テ之ニ給スル糧食ハ遠隔ノ内地若クハ海
路ヲ迂回シテ輸送セリ是ハ多數ノカザーク兵ヲ移殖セシムルヲ得サリ
シ一大原因ナリキ然レモ目下布設中ナル悉比利鐵道ニシテ延ビテ内地ニ達
スル曉ニ糧食運搬ノ便ヲ得之レト共ニ「カガ」ノ兵ノ移殖モ大ニ擴張スル
ヲ得ルナレシ此ノ糧食問題ニ就テハ夙ニ露廷ハ注意セリ所ニシテ夫ノ滿洲松
花江河畔ヨリ三姓地方ノ豐饒ナル土地ヲ左領セント多年計畫セテ糧食
供給ノ本原地ヲ得ントノ底意ナリト明亮ナリ今ヤ露國ハ清帝ニ嚴談シ
「ニコリムク」村（浦塩斯德ヨリ百ニ露里在リ我カニ十七里ヲ距ル鐵道沿線ノ村落ニシテ

茲ハ狙撃旅團本部狙撃大隊才三才四才五大隊、砲兵旅團本部才二輕砲隊
才四山砲隊等アリテ浦塩斯德ニ比シ重要ナル村落アリ一ヲ起點トシ滿洲ニシテ
ク一及ヒフチガールヲ經過シフチタム府、兩端ヨリ出發シテ實測ニ從事セリ
是ニ関スル露清間ノ條約ハ極メテ秘密ニシテ容易ニ探知スルヲ得ケルニ敷設
地ヲ清國ニ借入レ實測ニ着手セシハ（小官ノ知人ニ鐵道技士該實測隊員ト
シテ浦塩斯德ヲ發ス）更ニ疑ヲ容レサル所ナリ。該滿洲鐵道モ素来一
大工事ナレハ其該工期ハ向古六七十年ノ後ニ在リト雖モ然レモ該線路以
北滿洲豐饒ノ地即チ松花江畔並ニ三姓地方ヲ暗々裏ニ露國ハ永久
占領セントノ野心アルハ現時露廷ノ清國ニ對スル政畧ニ徴シ其目的ヲ達
スルノ難カラリルカ如シ若シ露國ニシテ該地方ヲ略有シ糧食本原地ヲ得
且ツ之レト共ニ滿洲鐵道ヲ利用スルハ露廷ノ東方政策ハ漸々其基
礎ヲ固クレ德ニ東洋ニ勢力ヲ延スルニ終ニ露國ノ權勢ハ挫折シ難
キニ至ラレシ之ニ由テ之ヲ觀ぶ目下實測中ニ滿洲鐵道ハ向古東洋ニ

於テ重大ノ關係ヲ惹起スルハ必然ナルヘシ且ツ又右滿洲鐵道ヲ支線ヲ
起シ義勇及牛莊ヲ經テ旅順ロツテ線路ヲ延長スルノ計畫アリトノ説
アリシモ小官十二月初旬ニ浦塩斯德港ヲ出發スル頃スル之ニ因テ確報
ヲ得サリキ

義勇艦隊汽船ハ昨午六七月以降「オデッサ」港ヲ「カザーク」兵ニ及ニ
移氏其他海陸軍用諸器械並ニ鐵道用諸材料ヲ當港ニ回送スル特
ニ頻繁ナリキ然レテ本年ヨリ末年ニ至ル冬季結氷中モ破冰汽船「シ
ラー」号ミテ凍氷ヲ裁リ割り艦船ヲシテ自在ニ出入セシムル目的ナリト云
フト是凡昨冬季結氷中「シラー」号ハ非常ノ勉強ヲ以テ破冰事業ヲ
為シ陸兵ノカヲ藉リ辛クビテ義勇艦隊汽船「カスツロー」号ニ破冰「コレ
ー」号「マコツ」号「ジュール」号ヲシテ漸ク出港セシムルヲ得セリノク「シ
ラー」号一隻ニ其時ノ状況
及成績ニ就テ考察スルニ當冬季結氷中モ右「シラー」号一隻ニテ破冰
事業ニ就ク「シラー」号當分艦船ヲシテ自在ニ出入セシムルカ如キハ實際覺束

ナキカ如シ然レモ近ニ改露ヲ新砕氷航船固航スル置テ差シ果シテ堅牢
強勢ナル砕氷航船尚ホ一二隻モ到達スル曉ニ結氷中ト呈示意、如ク艗
船ヲ出入セシムルヲ得可シ蓋シ其目的ヲ達スル時期到来スルハ近キト
在ルナラン

一浦塩斯德港浮船渠ハ不施用途極メ忙シ来春「アドミラル」エルニローウ号航
鎖据替ノ為メ該船渠ニ揚ゲルト云フ五千噸位ノ巨艗ヲ全船渠ニ揚ゲルハ創
設以來最モ稀ナリト云フ

重テ工事中ナル乾船渠ハ長ク艗木上ノ上部六・二五呎、盤木上ノ下部五・五
呎、渠内上部幅一・二呎、渠口幅八・五呎、深ク船底ノ所三・呎ハ殆シト
緩工目下船底ノ工事而已残リ築造委員長「イワー」ノ言ハ言ニ工事
ヲ急遽シ本年中ニ是非トモ緩工セシムル目的ナリト然レモ察ス所良シ
来年四五月迄ニ工事了ルモ未ク之ニ要ス器械等到達セリルカ故ニ実
用ヲ為スハ蓋シ来年七八月ノ後ナラン

一石炭ノ件、就テ露廷ニ於テ目下一問題トシ、沿海州地方ニ炭礦ヲ
發見セシメ、汲ミテ、現時沿海州地方ニ於テ石炭ヲ産出スルハ「サハリ」島
「ソ」エ炭坑トス炭質甚良ナリ且ツ粉炭ト然ルモ「サハリ」島西岸ニ到ル
處炭脈ナラリナシ當時露人「セカ」ロウ「氏」ハ「サハリ」島採炭會社主幹
トシ罪囚ヲ使役シテ倍ニ採炭事業ヲ擴張ス、有様ナリ浦塩斯德其
他總テ沿海州地方ニ於テハ專テ該炭ヲ燃用ス但シ烏蘇利鐵道汽車
ハ新材ヲ燃用スルカ故ニ浦塩斯德港ニ用ス石炭、總額ハ平時ハ左ニテ多
額ナラリルカ如シ其他ニ蘇城炭坑ヲ無烟炭ニシテ炭脈モ最モ廣ク將來頗
ル多量ノ炭坑トシ採炭場ヲ「ア」ナリカ「灣」内「ナ」ホ「フ」カ「澳」ニテ運炭鐵道ヲ
敷設スルカ如キ計畫アリト雖モ未タ其採掘高ハ極メテ微々ナリ浦塩斯德ニ
於テモ蘇城炭ヲ燃用スルカ如キ最モ稀ナリトス
以上炭礦ノ外浦塩斯德ヲ「牙」三停車場「ハ」ワ「カ」ロー「ブ」ナ「ヤ」附近ニ露人「ユ」ル
「ロ」ウ「氏」借地ノ炭礦ヲ「ハ」官其空地ニ就キ一覽シタルニ發見後未タ時日

モ僅ニ経過ニケルナレバ採掘方法モ整頓セザルカク其炭質モ亦善良ナラス
殆ント「サハリシ」島「ブ」ニ炭ト相類似スト云フ（石炭見本トシテ其塊片ヲ持帰リ）又其次ナル即チ
茅田停車場「サデー」ジヂニカヤ「ヨ」北八露里ノ所ニ新ニ炭礮ヲ登見シ炭
質ハ魚烟炭ニシテ蘇城炭ヲモ遙ニ善良ナリト云ニ目下其採掘着手中
ナリ其他聖「ヨリ」ガ湾岸附近ニモ等シク炭礮ヲ登見シ露商「セウエ」ヨ
「ウ」會社「於」テ試掘中ナリ斯ノ如ク現時露商ハ熱心ニ炭礮登見ニ努
カセシモ是「ヨリ」所ハ充分ノ炭礮ヲ登見シ得ル有様ナリ然レモ近時東
部悉比利狙撃隊一隊ニ旅團ノ十大隊ヲ獵兵隊ト称スルモノヲ編
成シテ地理ヲ研究セシノ陸地測量部隊ヲ數ニテ正測ヲ行ハシムル等
烏蘇利地方ノ探見事業（獵兵隊ノ編成ハ別ニ記出ス可シ）ハ最モ熱
心ニ執行中ニシテ加フルニ沿海州ハ特ニ礦物ニ裕ナル地方ナレ他日良質多
層ノ炭礮ヲ登見シ得ル時「可シ」（前記「サハリシ」島産炭ニ係ル詳細ハ西
山大尉悉比利巡回報告中ニ掲載シテハ參照スル「ヨリ」願フ

前文ニ記述スルカ如キ有様ナルヲ以テ悉比利鉄道ノ疎ク内地ニ延長シ又ハ
満洲鉄道ノ実施若シハ満洲東北部ニシテ露人ノ畧有スル所トナルハ
於テハ糧食ノ供給ハ意ノ如クタルヲ得又海路ハ日ニ月ニ盛大ナラシムル義
勇艦隊流転ハ便ヲ以テ兵士移民及兵器等ヲ輸送シ海陸運搬ノ便ニ
依リテ沿海州地方ノ軍備ヲ張ルニ是ニテノ如ク困難ナラサルヘシ然レモ現
時浦塩斯德港ノ大勢ニ就テ考察スルニ第一新築ノ船渠ハ未タ竣工
セズ浮船渠ハ僅ニ姑息ノ修理ニ充ツ而已ニシテ巨艦ノ修覆ハ到底望
ム可ラズ第二本港海軍機械部其他ニ要スル石炭ハ總テ一ツハリノ一島産
ノ高價ナル石炭ヲ使用シ艦船ニ於テモ多クハ全島炭ヲ燃用スルモ現時ノ
露國太平洋全艦隊ニシテ若シ本港ニ一時根拠ヲ定メ右炭ヲ使用セ
ントスルハ欠乏ヲ来スト必然ナリ故ニ本年五月沿海州ニ出師準備ヲ
令シ浦塩斯德港ニ戒嚴令ヲ布キタル時ニ當テ多量ノ石炭ヲ要ス
ル械到來セリテ豫知シ俄カニ朝鮮政府ニ嚴談シ釜山港ニ一時借

地ニテ炭庫ヲ築造セントノ計畫アリト云ヒシモ是レ必竟スルノ石炭供給ノ困難ヲ来リシ窮策ナリシナリカ前文ニ記スルカ如ク蘇城炭其他一二ヶ所ノ炭坑アルモ未タ採炭事業微々トシテ多額ノ需用ニ応ズル得サルナリ第三糧食ノ準備ハ烏蘇利鉄道アリト虽氏未タ其延長僅々ナレバ内地ヲ糧食ヲ輸送スル能ハス義勇艦隊汽船又ハ雇船ニテ改露着クハ外國ヲ輸入センカ一朝有事ノ際ハ安全ニ運送スルノ難カル可シ其他改露國ノ沿海州出師準備上ニ関シ出生スル所ノ障害ハ枚舉スルニ遑アラスト虽氏右三大欠点ハ實ニ出師準備上最モ重大ナル要素ニシテ之ヲ欠ク内ハ如何ニ勢力ヲ延サントスルモ到底為シ能ハサル可シ宜ナル哉近時露廷ハ此三大欠点ニ最モ注意シ乾船渠工事ヲ急便ニ沿海州ニ炭坑ノ發見ヲ努メ又ハ糧食本原地ヲ畧有セントスル等銳意計畫到ラサル所ナレ現時ノ扶勢ニ就キテ考察スルニ其希望ヲ達スルノ時期到来スルハ應サシ近キニ在ルカ如シ然ラズ則此三大欠点完備セス露國ノ東洋ニ

旅の攻防、基礎鞏固ナサルニ先ニシテ其鋒ヲ挫折セリハ他日終ニ抑壓
シ難キニ至ランカ頻ニ杞憂ニ堪ヘサル所ナリ

昨明治二十七年三月、官浦塩期徳港出張以來本年十二月ニ至ルマデノ間
露人、日本人、対ニ感情的、變更ハ大、事實ニ顯ニ隱然日露國交
間ニ重大ノ關係ヲ惹起サントスルノ狀アリキ後來露人、日本人ニ對スル感情
ハ日清開戦前より本邦人ハ清韓人、如ク虐待不敬ヲ受ルナシト雖モ
併、独、英、米、人等ニ對スルカ如クナラセテ多少蔑視セラン、頗アリシカ愈々
日清交戦トナリ露人等ハ飽エテ昭裏ニ勝算ヲ清國ニ抱キシニ皇軍ノ
連戦連捷ノ捷報ハ大ニ露人ノ迷夢ヲ攪起シ彼等感激禁シ難ク
頻リ、日本兵士ノ勇猛豪氣ナルヲ歎賞シ併セテ日本國民ノ忠肝義
膽、富ムヲ賞揚シテ皇軍ノ成功ヲ羨慕シ是ニテ冷遇セシ露人モ今ハ
一変シテ大ニ恭尊礼遇スルノ有様トナリ戦勝ノ餘裕俄カニ日本人ノ高
ヲ高シテ蓋シ尚武主義ナル露人ナレズ斯ク感情ノ一変セシモ是レ自然

ノ勢ナラシカハ官常ニ露人ノ宅ニ寓居シ兼テ來往ニ陸海軍士官其他
官吏知人等ヲ捷報毎ニ祝賀ヲ受ケシガ實ニ何トナリ肩輿廣ク愉快ニ
堪ヘリキ斯テ我カ皇軍ノ海陸並ニ進シテ愈々全勝ヲ埒セリトシ遼東
半島我カ領土トナシトスルノ勢アルニ至テ露人ノ驚愕一ト方ナラス此俟ニ放
任セハ日本ハ大陸ニ手ヲ延ビ軍事上重要ナル遼島半島ニ陸海軍
根據ヲ据ヘ激海ノ咽喉ヲ扼シ且朝鮮海ヲ制シ以テ清國全土ヲ睥睨
シ東洋ノ霸權ヲ掌握セシトスルノ傾アリハ東洋ノ一大問題シ其關係ノ直
接ニ及フ所ノ露國ハ飽マテ之ニ干渉セカレ可カト彼等ノ意向再ニ変シテ
干渉主義トナレリ然レテ其當時露人中揚言シテ曰ク今回改露マ
数隻ノ軍艦ヲ派シテ太平洋艦隊ノ勢力ヲ増ストカ幾萬ノ陸兵ヲ
義勇艦隊ニテ沿海州ニ輸送スルカ陸路ヲカガーク兵幾千ヲ差ス
トカ容易ニ実行シ難キ虚報ヲ放テ人心ヲ攪動シ日本人ニ對シ大ニ
示威運動ヲ試ミシトスルノ状アリシ是レ實ニ本年三四月ノ頃ナリキ扱テ

夫より日清事件愈終局、近き当り露人ノ干渉主義ハ倍々其熱反
ヲ高クシ若シ日本ミテ果シテ大陸ヲ占領セハ巧妙ナル政略ヲ以テ漸次
ニ清國全土ノ人心ヲ感化シ長足ノ進歩ヲ以テ清人ヲ誘導シ清國
陸海軍ノ組織其他總督制度ノ更革ヲ幫助シ終ニ日清同盟ノ策
ヲ執ルナリ是レ故米人ニ於テ人種上ノ差異ト云ヒ文字風俗ノ大差ト云
ヒ清國ト同盟スル到底行ハレ難キト馬氏日清提携ニ同盟スル容易
ナルニ若シ同盟成ルハ尙ホ進テ東洋ヲ白誓人種ヲ驅逐スルニ至
ラント露人ノ中東洋ノ大勢ニ着眼スルモノハ日清事件ノ終局ニ就テ斯ク如キ
人種論ヲ主唱シ日本カ東洋ニ於テ揮ヒトスル勢力ニ関シテ露國ハ絶對的
ニ反抗シ今ミテ其銳鋒ヲ挫折セリハ東洋ノ霸權ハ終ニ日本ノ掌握スル
所トナリ露國ニ對シ他日一大患害ヲ来ス日本國ナルハ必然ナリ然レ露
國ハ能ク日本ノ大陸右領談判ニ干渉シ其志ヲ達セシナサルハ我カ東
洋政界ノ最大急務ナリトモ是レ三國同盟ヲ締結セル當時ノ執勢

ナリキ

夫より三國同盟ノ愈々發表セシヤ露人ハ日本カ必ス不拔ノ勢ヲ以テ強
硬主義ヲ執リテ英國ト同盟提携シ能クテ三國同盟ニ反抗スルナラン
然レハ先ツ第一ニ我カ沿浦州ハ宜シク攻防ノ準備ヲ整頓セサル可ラストテ
本年五月一日俄カ沿海州ニ出師準備ヲ令シ豫備兵ヲ召集シ馬
匹ヲ徵發シ浦塩斯德港ニ戒嚴令ヲ布ク尋戰雲密塞殺氣暗澹
今モ日露間ノ平和破レトシテ現象ヲ表シ曖昧無稽ノ露人輩中
ニ往々居留日本人ニ傲慢無礼ヲ加ふる者アリテ一時ハ日本人ニ對シ
露人ハ概シテ惡感情ヲ抱ケルカ如キ有様ナリキ然レモ此時陸海軍
兵卒等ハ所管長ヨリ嚴令アリシ由ニテ平素ノ暴行ニ似テ層靜肅
更ニ粗暴ノ舉動ナカリシハ蓋シ當初示威的運動ノ後憂テ沈着主
義トナリシ影響ナラシカ実ニ日清開戰前ニ於ケル露人ノ日本人ニ對ス
輕侮心ハ日清交戰中一変シテ本邦人ヲ礼遇スル意向トナリ皇軍ノ

戦勝ヲ羨慕ス、餘リ示威的運動ヲ試ミシカ再ヒ変ヒテ干涉主義
 トナリ終ニ日本人ヲ敵視ス至リ目下露廷沿海筋ニ於テ軍
 事上ノ運動ヲ為スヤ遠大ノ規模ヲ抱キ先ツ糧食ノ本原地ニ満
 東北部ヲ領有シ鉄道ノ布設ヲ急促シテ運輸、便ヲ開キ以テ沿海
 軍備、基礎ヲ鞏固ニスル等實ニ当初、示威的運動ハ翻テ沈着主
 義トナリ爾後之ニ基キ能ク其目的ヲ達セルトスルヲ以テハ宜シク其
 動靜ニ注意スル目下、急務ト確信シ茲、其鄙見ヲ添ヘ報告候也

(明治二十八年十二月八日)

浦新德港砦位置圖

與龍爭

既成砲台

ネリオーロウ
●山甲

太平洋

口 入 東 峽 海

西ノ島

陸軍水雷隊

ウリス

ハッロークル

バザルギノナ

廿九年一月三十日

海令第三十四号

二月十日

在浦塩港派遣官報告

義勇艦隊ノ汽船「ウラジミ」号ハ貨物凡ソ七千噸ヲ搭載シ本國「オデッサ」ヲ本月八日入港仕候貨物ノ重ナルハ鐵道用材料大砲彈藥等ニシテ严寒ノ為メ之レカ陸揚ニ手間取リ漸ク明日、出港ト申事ニ候碎氷汽船「ミラーチ」号ハ数日前ヨリ碎氷ニ後事ニ其他多數ノ兵員八日ニ堅氷ヲ鋸キ割り居候結氷中、汽船ヲ出港セシムルハ只一條ノ堀割ヲ鑿設スルニ過キリ此隨合勞力ヲ要スル事ニシテ有候昨年ハ一月廿六日「カストロ」号ヲ出港セシメタルカ初メシテ続テ砲艦ニ隻ヲ引出シタル實験アルニ依リ本年ハ其手筈萬端都

合能ク行届キ堅氷ヲ破砕シテ通路ヲ開クモ昨年ニ比スルバ容易ナリシ
カ如ク有之候尚ホ一兩日内ニ汽船ヲニホフ一号ヲ入港ノ筈ニ之ニ有リ
候近來迄冬期ハ結氷ノタメ絶ヘテ交通スル能ハサリシモ不拘昨年ヨ
リ汽船ノ出入港丈ハ殆ント容易ナルニ至リ候今後若シ便宜ノ位置
ヲ撰ヒテ一大棧橋ヲ建設スルニ至ラハ戦時軍需品ノ積載ニ差支
ヘサルニ至ルヘキカト思料セリ

一月三十日